

ダンボール箱を使って堆肥化をしてみよう

☆用意するもの

- ・ダンボール箱(みかん箱ぐらいの大きさ)
- ・腐葉土
- ・新聞紙(一日分ぐらいの量)
- ・ガムテープ
- ・虫除け用の覆い布(古いバスタオルなど)

☆設置する場所・方法

- ・雨の当たらない、風通しのよい所に設置します。
- ・虫の入らないように覆い布をします。
- ・できれば直接地面に置かず、ダンボールの底も空気のとおりを良くしましょう。(ブロック・すのこ板等)

①ダンボール容器の作り方

ふたの部分を立て、底や周りをガムテープで補強し、新聞紙をダンボールの底に敷いて補強します。

②床づくり

腐葉土をダンボール箱に全て入れます。

③生ごみを入れ、よくかき混ぜます。

- ・1日目は、水切りした生ごみ約1kgを投入し、よくかき混ぜます。
 - ・2日目からは、水切りした生ごみ約500gを投入してかき混ぜます。
- かき混ぜ終わったら、虫の入らないように覆い布をします。

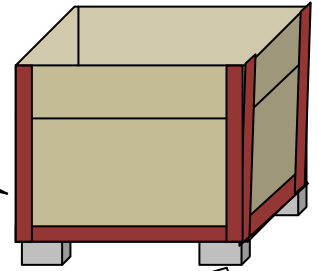
○ポイント

- ・1日1回はスコップ等で空気を入れながら切り返します。
- ・水分状態の目安は、ぎゅっと握り、ぱっと離すと崩れるぐらいが発酵に良い状態です。
- ※たい肥化の大敵は水分です。三角コーナーなどでよく水切りをしてください。
- ・生ごみは細かくしたほうが早く分解します。

④終了後は(終了までの目安としては、1~2ヶ月)

- ・腐葉土と混ぜて1ヶ月程寝かすと堆肥として使用することが出来ます。
- ・基材を少し残して、次の床に使うと新規のときより分解が進みやすくなります。

ふたの部分を立て、
底や周りを
ガムテープで補強します



ブロックなどの上において、
通気性をよくします。

■臭いについて

一度にたくさんの生ごみを入れると、温度が急激に上がり、カビや土くさい匂いがしますので、投入する量を調整してください。しかし、生ごみの発酵には少なからず臭が発生しますので、上手に付き合ってください。

■カビ・虫について

表面に白カビが発生する事がありますが、好気性菌で人体には無害のものです。生ごみを4~5日入れないでかき混ぜないまま放置すると、小バエやダニなどの虫が発生する場合があります。できるだけ毎日生ごみを入れて、しっかりかき混ぜるようにしてください。

■入れてはいけないもの

- ・レモンのような酸性の強い食べ物(柑橘系類の皮)
- ・動物の骨
- ・卵や貝の殻
- ・水気の多いもの